

# 社会階層と健康(3)

## —若年層における仕事の条件と職業性ストレス—

東北学院大学 片瀬 一男

### 1 目的

本報告では、職業性ストレスが発生するメカニズムを仕事の条件（職務要求の厳しさとコントロールの比からなるストレイン）といった観点から明らかにする。近年の労働条件の変化に注目すれば、非正規労働者が増大する一方で、正規労働者の労働時間が増加することで、若年労働者においては、「使い捨てられ」と「燃えつき」の二極化が進行している、とされる（熊沢,2006）。こうして正規雇用者の労働強化がすすむ一方で、自律的コントロールを欠いた非正規雇用者が増加する状況のなかでは、どのような仕事の条件がストレスを増大させ、健康格差を生みだしているのか明らかにしたい。

### 2 方法

データは福岡と仙台で行われた「仕事と健康に関する市民調査」の統合データを用いる。職業性ストレスには4段階からなる自己評定、またストレインについては、日本版 JDC 尺度を用いて測定し、仕事のコントロールに対する要求度の比からストレイン (Karasek,1979) を計算した。

### 3 結果

まず職業性ストレスについては、自営ホワイトカラーに比べて専門や大企業ホワイトカラー・ブルーカラーで高くなっている。また仕事の要求度は専門職や大企業ホワイトカラーでとくに高い。他方、仕事のコントロールは自営ホワイト・ブルーカラーで高くなっていた。そこで、両者の比からストレインをみると、自営ホワイトカラーに比べて、専門職や大企業ホワイトカラー・中小企業ブルーカラーで高くなっていた。他方、従業上の地位に注目すると、大企業ブルーカラーを除いて、仕事の要求度は非正規よりも正規で高く、逆にコントロールは非正規よりも正規で高くなっていた。その結果、両者が相殺しあう形でストレインには従業法の地位による差異はみられなかった。またストレインの規定因をみても、従業上の地位の影響はみられず、週労働時間の長さがストレインを高めていた。

最後に、職業性ストレスの規定因をみたところ、正規雇用であること、長時間労働であることが職業性ストレスに直接効果をもっていたが、部分的には正規雇用であることが労働時間を長くし、それによってストレインが高まることで職業性ストレスも高まることが示唆された。

### 4 結論

仕事の要求度とコントロールからなるストレインは、部分的にはあるが、正規雇用における長時間労働を職業性ストレスへと媒介する要因になっていることが示された。

#### [文献]

Karasek, Robert .1979. Job Demands, Job Decision Latitude, and Mental Strain: Implications for Job Redesign. *Administrative Science Quarterly*. Vol.24,No.2 :285-308.

熊沢誠,2006,『若者が働くとき：「使い捨てられ」も「燃えつき」もせず』ミネルヴァ書房

#### [付記]

本研究は平成 21～25 年度文部科学省科学研究費新学術領域研究「現代社会の階層化の機構理解と格差の制御：社会科学と健康科学の融合」（代表：川上憲人東京大学大学院医学系研究科教授）によるものである。